

事業の活動量・実績の数値化 活動指標	指標名		単位		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	①	妙見祭啓発活動数 （出し物派遣、出前講座、衣装方講座ほか）	回	計画	-	15	20	25	25	25	
				実績	15	15	19	27	31	-	
	②	ポスター・チラシ配布箇所数	箇所	計画	-	100	150	200	250	300	
				実績	107	109	150	250	254	-	
	③			計画	-						
				実績						-	
〈記述欄〉※数値化できない場合											
もたらそうとする効果・成果の数値化 成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	①	祭礼行事への市民の協力者数	人	計画	-	90	100	110	120	120	
				実績	88	73	99	122	145	-	
	②	妙見祭来場者数	八代妙見祭の御夜とお上りに来場した人数	人	計画	-	142500	170000	170000	180000	180000
					実績	140000	170000	190000	200000	225000	-
	③				計画	-					
					実績						-
〈記述欄〉※数値化できない場合											

3 (Check) 事務事業の自己評価		
着眼点	チェック	判断理由
◆事業実施の妥当性を備えているか ・事業の目的が上位政策・施策に結びつくか ・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か(国・県・民間と競合していないか)	● 妥当である 概ね妥当である 妥当でない	伝統文化は、地域のつながり、絆づくりにおいて果たす役割は大きい。妙見祭のユネスコ無形文化遺産登録、八代市民俗文化財保存連合会の発足など、伝統文化の保存継承に関するニーズや関心は高まっている。
◆活動内容は有効なものとなっているか ・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか(成果をこれ以上伸ばすことはできないか)	● 有効である 概ね有効である 有効でない	妙見祭への来場者は順調に増加している。ユネスコ無形文化遺産登録により認知度が向上し、ますます来場者が増加するものと予想される。
◆実施方法は現行どおりでよい ・民間委託、指定管理者制度の導入などにより、成果を下げずにコストを削減することは可能か ・目的や形態が類似、関連する事業との統合・連携によりコストの削減は可能か ・現状の成果を下げずに非常勤職員等による対応その他の方法により、人件費を削減することは可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担を見直す必要があるか(引上げ・引下げ・新たな負担・廃止)	● 現行どおりでよい 見直しが必要	祭礼行事の運営に必要な経費については、寄付や協賛金の呼びかけなど自己財源確保の努力がなされている。

4 (Action) 事務事業の方向性と改革改善			
今後の方向性 (該当欄を選択)		1 不要(廃止) 2 民間実施 3 市による実施(民間委託の拡大・市民等との協働等) 4 市による実施(要改善) ● 5 市による実施(現行どおり) 6 市による実施(規模拡充)	
今後の方向性の理由、改革改善の取組等		(今後の方向性の理由、改革改善の取組ともたらそうとする効果など) 国指定重要無形民俗文化財の価値を維持し、継承していくとともに、適切な管理・運営を実施していくためには、行政・市民・企業等が連携を図りながら、取り組みを進めることが重要である。 現在も保存団体と行政による協働で実施しているが、今後さらに市民の理解・意識向上を促進し、持続的な運営を目指す。	
外部評価の実施		無	実施年度
改善進捗状況等	H28進捗状況		
	H28取組内容		
決算審査に伴う常任委員会における意見等		特になし (委員からの意見等)	

事業の活動量・実績の数値化 活動指標	指標名		単位		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	①	寄附受理件数	件	計画	-	2	3	4	5	6	
				実績	2	2	3	2	2	-	
	②			計画	-						
				実績						-	
	③			計画	-						
				実績						-	
	〈記述欄〉※数値化できない場合										
	もたらそうとする効果・成果の数値化 成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
①		基金積立額	やつしろ文化振興基金に 積み立てた額	千円	計画	-	3185	2601	2600	2600	2600
					実績	2417	2373	2475	2256	2050	-
②					計画	-					
					実績						-
③					計画	-					
					実績						-
〈記述欄〉※数値化できない場合											

3 (Check) 事務事業の自己評価		
着眼点	チェック	判断理由
◆事業実施の妥当性を備えているか ・事業の目的が上位政策・施策に結びつくか ・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か(国・県・民間と競合していないか)	● 妥当である 概ね妥当である 妥当でない	文化財等の保存・継承及び活用のためには、多額の経費が見込まれるので、基金の積み立ては今後にも必要である。
◆活動内容は有効なものとなっているか ・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか(成果をこれ以上伸ばすことはできないか)	有効である ● 概ね有効である 有効でない	積立額は減少傾向にあるものの、年間を通して一定のカード利用があるため、毎年安定した積み立てがなされている。 ただし、その他の個人、団体・企業からの寄附件数は増加していない。
◆実施方法は現行どおりでよいか ・民間委託、指定管理者制度の導入などにより、成果を下げずにコストを削減することは可能か ・目的や形態が類似、関連する事業との統合・連携によりコストの削減は可能か ・現状の成果を下げずに非常勤職員等による対応その他の方法により、人件費を削減することは可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担を見直す必要があるか(引上げ・引下げ・新たな負担・廃止)	● 現行どおりでよい 見直しが必要	協定に基づく寄附の受領事務であるため、民間委託等には馴染まない。

4 (Action) 事務事業の方向性と改革改善			
今後の方向性 (該当欄を選択)		1 不要(廃止) 2 民間実施 3 市による実施(民間委託の拡大・市民等との協働等) 4 市による実施(要改善) ● 5 市による実施(現行どおり) 6 市による実施(規模拡充)	
今後の方向性の理由、改革改善の取組等		(今後の方向性の理由、改革改善の取組ともたらそうとする効果など) 文化財の保存・継承・活用には多額の費用を要するので、基金の周知を積極的に行い貴重な財源として引き続き増額に務める。	
外部評価の実施		有：外部評価	実施年度 平成28年度
改善進捗状況等	H28進捗状況	3. 現状推進	
	H28取組内容	現状推進	
決算審査に伴う常任委員会における意見等		特になし (委員からの意見等)	

1 (Plan) 事務事業の計画

事務事業名	文化行事事業			会計区分	01 一般会計				
				款項目コード(款-項-目)	9	—	7	—	6
施策の体系 (八代市総合計画に おける位置づけ)	基本目標(章)	2	郷土を拓く人を育むまち	事業コード(大-中-小)	2	—	41	—	19
	施策の大綱(節)【政策】	4	文化のかおり高いまちづくり	総合戦略での 位置づけ	基本目標				
	施策の展開(項)【施策】	1	伝統の継承・活用と八代の文化の創造		施策大項目				
	具体的な施策と内容	2	芸術・文化活動の推進		施策小項目				
事務事業の概要 (全体事業の内容)	市内の各種文化活動団体の自主参加による活動成果発表の機会の創出と市民に芸術文化鑑賞の場を提供するため八代市文化祭を開催し、本市の文化振興と市民文化の向上を図る。また、各地域で様々な特色ある伝統文化を次の世代に伝え残していくために伝統文化後継者育成事業を実施する。								
実施手法 (該当欄を選択)	☐ 全部直営 ☐ 一部委託 ☒ 全部委託 ☐ その他()								
補助金事業該当	☐ 補助金(主な補助先:)※予算の全てが補助金支出である場合に記入。								
根拠法令、要綱等	文化芸術基本法、八代市文化振興計画								
事業期間	開始年度		終了年度		法令による実施義務 (該当欄を選択)	☐ 1 義務である ☒ 2 義務ではない			
	合併前		未定						

2 (Do) 事務事業の実施

評価対象年度の事業内容等

対 象 (誰・何を)	①八代市文化祭実行委員会 ②八代市文化協会									
事業内容(手段、方法等)				成果目標(どのような効果をもたらしたいのか)						
①八代市文化祭:市民に公募し、文化団体67団体が舞台・展示部門にて発表し、子どもから高齢者まで市民が鑑賞した。 期日:平成28年9月7日~11月6日 場所:博物館・厚生会館・やつしろハーモニーホール・代陽公民館・松浜軒など 内容:展示部門(美術・書道・写真・華道・園芸等)その他部門(茶道・文芸等)舞台部門(日舞・洋舞・伝統芸能・民謡・詩吟・器楽・合唱等) ②伝統文化後継者育成事業: まちの先生派遣事業:市内在住・在勤のグループを対象に、要請に応じ、各文化分野の登録講師を派遣した。平成28年度は133回派遣し、延べ4,000人が受講した。				各種文化団体の日頃の練習成果の発表の機会と市民に鑑賞の場を提供することで、市民の文化に対する意識高揚を図る。 伝統文化を体験することで、地域文化を再認識するとともに、後継者の拡大を図る。						
コスト推移				26年度決算	27年度決算	28年度決算	29年度予算	30年度見込	31年度見込	32年度見込
事業費(直接経費) (単位:千円)				1,806	1,752	1,649	3,650	1,650	1,650	1,650
財 源 内 訳	国県支出金									
	地方債									
	その他特定財源(特別会計→繰入金)						2,000			
	一般財源(特別会計→事業収入)			1,806	1,752	1,649	1,650	1,650	1,650	1,650

事業の活動量・実績の数値化 活動指標	指標名		単位		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	①	文化祭参加団体数	団体	計画	-	74	74	75	75	76	
				実績	72	74	73	71	67	-	
	②	伝統文化後継者育成事業実施回数	回	計画	-	100	120	130	140	150	
				実績	94	115	123	120	133	-	
	③			計画	-						
				実績						-	
	〈記述欄〉※数値化できない場合										
	もたらそうとする効果・成果の数値化 成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
①		文化祭来場者数	文化祭に来場することで、文化意識向上が図られた人数	人	計画	-	10100	10200	10300	10400	10500
					実績	10054	9860	11069	11274	9370	-
②		伝統文化後継者育成事業受講者数	まちの先生派遣事業を受講した人数	人	計画	-	2168	4000	4200	4500	4700
					実績	2168	3999	3883	3961	4000	-
③					計画	-					
					実績						-
〈記述欄〉※数値化できない場合											

3 (Check) 事務事業の自己評価		
着眼点	チェック	判断理由
◆事業実施の妥当性を備えているか ・事業の目的が上位政策・施策に結びつくか ・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か(国・県・民間と競合していないか)	● 妥当である 概ね妥当である 妥当でない	八代市文化祭は参加団体数、来場者数ともにわずかに減少しているものの、市民の文化力向上にとって貴重な機会となっている。 まちの先生派遣事業は、毎年多くの派遣希望があり、市民ニーズを反映している。
◆活動内容は有効なものとなっているか ・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか(成果をこれ以上伸ばすことはできないか)	有効である ● 概ね有効である 有効でない	まちの先生派遣事業は順調に推移している。八代市文化祭については、参加団体、来場者の増加に向けた努力が引き続き必要である。
◆実施方法は現行どおりでよいか ・民間委託、指定管理者制度の導入などにより、成果を下げずにコストを削減することは可能か ・目的や形態が類似、関連する事業との統合・連携によりコストの削減は可能か ・現状の成果を下げずに非常勤職員等による対応その他の方法により、人件費を削減することは可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担を見直す必要があるか(引上げ・引下げ・新たな負担・廃止)	● 現行どおりでよい 見直しが必要	八代市文化祭については、企画から運営まで文化協会にて主体的に行われている。 派遣事業については、講師派遣料以外は受講者の自己負担であるため、受益者負担も適正と考える。

4 (Action) 事務事業の方向性と改革改善			
今後の方向性 (該当欄を選択)		1 不要(廃止) 2 民間実施 ● 3 市による実施(民間委託の拡大・市民等との協働等) 4 市による実施(要改善) 5 市による実施(現行どおり) 6 市による実施(規模拡充)	
今後の方向性の理由、改革改善の取組等		(今後の方向性の理由、改革改善の取組ともたらそうとする効果など) 人材育成など文化協会の基盤強化を図ることで、市との役割分担を明確化し、さらに協働を進め、八代市文化祭等の内容の改善を含め、より多くの市民に芸術に触れる機会を創出したい。	
外部評価の実施		有：外部評価	実施年度 平成28年度
改善進捗状況等	H28進捗状況	3. 現状推進	
	H28取組内容	各種文化活動を行っている八代市文化協会の主体的取り組みを支援し、市民が文化に触れる貴重な機会として引き続き事業を実施している。	
決算審査に伴う常任委員会における意見等		特になし (委員からの意見等)	

1 (Plan) 事務事業の計画									
事務事業名	文化団体助成事業			会計区分	01 一般会計				
				款項目コード(款-項-目)	9	—	7	—	6
施策の体系 (八代市総合計画に おける位置づけ)	基本目標(章)	2	郷土を拓く人を育むまち	事業コード(大-中-小)	2	—	41	—	20
	施策の大綱(節)【政策】	4	文化のかおり高いまちづくり	総合戦略での 位置づけ	基本目標	4	“やつしろ”の発展を支えるま ちづくり		
	施策の展開(項)【施策】	1	伝統の継承・活用と八代の文化の創造		施策大項目	1	誇れるふるさとづくり		
	具体的な施策と内容	2	芸術・文化活動の推進		施策小項目	1	特色ある地域づくり		
事務事業の概要 (全体事業の内容)	文化団体間の交流や文化活動を促進し、個性豊かな地域文化の育成と新たな文化の創造を目指す。 ①八代市文化協会の活動支援 ②全国高等学校総合文化祭(高文祭)及び国民文化祭参加等出場に対する奨励費支給								
実施手法 (該当欄を選択)	○ 全部直営								

2 (Do) 事務事業の実施									
評価対象年度の事業内容等									
対 象 (誰・何を)		①八代市文化協会 ②全国高等学校文化祭出場校							
事業内容(手段、方法等)				成果目標(どのような効果をもたらしたいのか)					
①文化団体の活動支援 八代市文化事業補助金の交付 八代市文化協会の活動支援(65団体、1,658人) ②芸術文化大会等参加奨励費を支給 全国高等学校総合文化祭出場(開催地: 広島県)(29人)				①団体の活動基盤を強化し、文化活動を一層活性化させる。 ②高文祭等全国大会参加校への奨励費を支給し、八代の文化情報を全国に発信するとともに、優れた地域外の文化に接する機会を創出する。					
コスト推移			26年度決算	27年度決算	28年度決算	29年度予算	30年度見込	31年度見込	32年度見込
事業費(直接経費) (単位: 千円)			1,200	684	740	1,075	1,075	1,075	1,075
財 源 内 訳	国県支出金								
	地方債								
	その他特定財源(特別会計→繰入金)								
	一般財源(特別会計→事業収入)		1,200	684	740	1,075	1,075	1,075	1,075

事業の活動量・実績の数値化 活動指標	指標名		単位		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	①	交付団体について広報紙やホームページに掲載する延べ回数	回	計画	-	5	10	15	20	25
				実績	3	5	10	17	18	-
	②			計画	-					
				実績						-
	③			計画	-					
				実績						-
〈記述欄〉※数値化できない場合										

もたらそうとする効果・成果の数値化 成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	①	八代市文化協会の加盟団体数	八代市文化協会を文化振興の中心的組織と位置付け、その基盤強化を図る。	団体	計画	-	67	67	67	68	69
					実績	67	67	65	64	65	-
	②				計画	-					
					実績						-
	③				計画	-					
					実績						-
〈記述欄〉※数値化できない場合											

3 (Check) 事務事業の自己評価		
着眼点	チェック	判断理由
◆事業実施の妥当性を備えているか ・事業の目的が上位政策・施策に結びつくか ・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か(国・県・民間と競合していないか)	● 妥当である 概ね妥当である 妥当でない	八代市総合計画後期基本計画に掲げる芸術・文化活動の推進に沿った事業であり、文化活動の活発化と文化レベルの向上に寄与している。
◆活動内容は有効なものとなっているか ・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか(成果をこれ以上伸ばすことはできないか)	有効である ● 概ね有効である 有効でない	文化協会加入団体数は増加していないものの、活動は活発に行われている。協会運営も執行部を中心に主体的におこなわれている。文化団体の活動や行事について広報やつしろや市ホームページを活用し、更なる広報に努める。
◆実施方法は現行どおりでよいか ・民間委託、指定管理者制度の導入などにより、成果を下げずにコストを削減することは可能か ・目的や形態が類似、関連する事業との統合・連携によりコストの削減は可能か ・現状の成果を下げずに非常勤職員等による対応その他の方法により、人件費を削減することは可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担を見直す必要があるか(引上げ・引下げ・新たな負担・廃止)	● 現行どおりでよい 見直しが必要	文化協会については、各団体の会費負担もあり妥当である。芸術文化大会等参加奨励費についても、自己負担額が大きいため受益者負担は適正である。

4 (Action) 事務事業の方向性と改革改善			
今後の方向性 (該当欄を選択)		1 不要(廃止) 2 民間実施 3 市による実施(民間委託の拡大・市民等との協働等) 4 市による実施(要改善) ● 5 市による実施(現行どおり) 6 市による実施(規模拡充)	
今後の方向性の理由、改革改善の取組等		(今後の方向性の理由、改革改善の取組ともたらそうとする効果など) 文化協会の自主的な組織運営を促し、運営基盤の強化を図るための支援を行っていく。 全国高等学校総合文化祭出場校に対し参加奨励費を支給し、八代の文化情報発信と文化交流を引き続き支援する。	
外部評価の実施		有：外部評価	実施年度 平成28年度
改善進捗状況等	H28進捗状況	3. 現状推進	
	H28取組内容	平成29年度に本市で開催の「くもと子ども芸術祭」に向けて、文化協会が地域実施委員会のメンバーとして積極的に企画立案に参加するよう支援した。	
決算審査に伴う常任委員会における意見等		特になし (委員からの意見等)	

事業の活動量・実績の数値化 活動指標	指標名		単位		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	①	会議等での八代大会開催の周知と協力依頼回数	回	計画	-			4	6		
				実績				7	16	-	
	②	八代大会実行委員会の開催回数	回	計画	-			2	3		
				実績				2	2	-	
	③			計画	-						
				実績						-	
	〈記述欄〉※数値化できない場合										
	もたらそうとする効果・成果の数値化 成果指標	指標名		指標設定の考え方	単位		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
①					計画	-					
					実績						-
②					計画	-					
					実績						-
③					計画	-					
					実績						-
〈記述欄〉※数値化できない場合											
総会の開催及び円滑な運営が本事業の目的であり、総会参加者数も参加者側の意向により大きく変動するため、指標として適当ではない。											

3 (Check) 事務事業の自己評価		
着眼点	チェック	判断理由
◆事業実施の妥当性を備えているか ・事業の目的が上位政策・施策に結びつくか ・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か(国・県・民間と競合していないか)	● 妥当である 概ね妥当である 妥当でない	ユネスコ無形文化遺産登録を直前に控えた時期の開催であったため、市民に対し八代妙見祭の文化的価値を再認識してもらう絶好の機会となった。
◆活動内容は有効なものとなっているか ・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか(成果をこれ以上伸ばすことはできないか)	● 有効である 概ね有効である 有効でない	関係団体等とも十分に協議を行いながら開催することができた。参加者のおもてなしも十分にできた。
◆実施方法は現行どおりでよいか ・民間委託、指定管理者制度の導入などにより、成果を下げずにコストを削減することは可能か ・目的や形態が類似、関連する事業との統合・連携によりコストの削減は可能か ・現状の成果を下げずに非常勤職員等による対応その他の方法により、人件費を削減することは可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担を見直す必要があるか(引上げ・引下げ・新たな負担・廃止)	● 現行どおりでよい 見直しが必要	関係する民間団体も実行委員会の構成員となり、十分に意見を反映し開催することができた。

4 (Action) 事務事業の方向性と改革改善			
今後の方向性 (該当欄を選択)		● 1 不要(廃止) 2 民間実施 3 市による実施(民間委託の拡大・市民等との協働等) 4 市による実施(要改善) 5 市による実施(現行どおり) 6 市による実施(規模拡充)	
今後の方向性の理由、改革改善の取組等		(今後の方向性の理由、改革改善の取組ともたらそうとする効果など)	
外部評価の実施		有：外部評価	実施年度 平成28年度
改善進捗状況等	H28進捗状況	1. 対応済（廃止含む）	
	H28取組内容	平成28年度で事業終了	
決算審査に伴う常任委員会における意見等		(委員からの意見等) 特になし	

事業の活動量・実績の数値化 活動指標	指標名		単位		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	①	文化財保護委員会開催回数		計画	-	2	2	2	2	2	
				実績		2	0	2	2	-	
	②	文化財保護委員数		計画	-	15	15	15	15	15	
				実績		14	14	15	15	-	
	③			計画	-						
				実績						-	
	〈記述欄〉※数値化できない場合										
	もたらそうとする効果・成果の数値化 成果指標	指標名		指標設定の考え方	単位		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
①		保護委員会からの答申件数	市の文化財に関する諮問を確実に行うことによって、市文化財保護委員会の機能を有効に活用する。		計画	-	1	1	1	1	1
					実績	0	1	0	5	1	-
②					計画	-					
					実績						-
③					計画	-					
					実績						-
〈記述欄〉※数値化できない場合											

3 (Check) 事務事業の自己評価		
着眼点	チェック	判断理由
◆事業実施の妥当性を備えているか ・事業の目的が上位政策・施策に結びつくか ・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か(国・県・民間と競合していないか)	● 妥当である 概ね妥当である 妥当でない	八代の歴史と文化に対する市民の関心や歴史を活かしたまちづくりに対する市民の期待が高まっており、文化財の保護に関する重要事項について審議する本事業の役割はより重要となっている。 「文化財保護法」第190条の規定に基づき制定された「八代市文化財保護委員会設置条例」により設置した教育委員会の諮問機関である。
◆活動内容は有効なものとなっているか ・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか(成果をこれ以上伸ばすことはできないか)	● 有効である 概ね有効である 有効でない	年度によって、開発等に起因する諮問件数は増減があるものの、保護委員会の開催によって適切に文化財の保護が図られている。
◆実施方法は現行どおりでよい ・民間委託、指定管理者制度の導入などにより、成果を下げずにコストを削減することは可能か ・目的や形態が類似、関連する事業との統合・連携によりコストの削減は可能か ・現状の成果を下げずに非常勤職員等による対応その他の方法により、人件費を削減することは可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担を見直す必要があるか(引上げ・引下げ・新たな負担・廃止)	● 現行どおりでよい 見直しが必要	文化財保護法及び市条例によって定められた事業であり、民間開発に伴う文化財の諮問等が対象となることもあるため、民間委託等にはそぐわない。 また、事務局業務については、文化財保護行政の根幹に関わる事業であるため、非常勤職員等では対応できない。

4 (Action) 事務事業の方向性と改革改善			
今後の方向性 (該当欄を選択)		1 不要(廃止) 2 民間実施 3 市による実施(民間委託の拡大・市民等との協働等) 4 市による実施(要改善) ● 5 市による実施(現行どおり) 6 市による実施(規模拡充)	
今後の方向性の理由、改革改善の取組等		(今後の方向性の理由、改革改善の取組ともたらそうとする効果など) 本事業は、「八代市文化財保護条例」「八代市文化財保護委員会設置条例」に基づく業務である。 八代の歴史・文化を物語る貴重な文化財が、適切に保存・活用され、後世に継承されるよう、文化財保護委員会を有効に活用しながら、文化財保護行政を円滑に推進する。	
外部評価の実施		実施年度	
改善進捗状況等	H28進捗状況		
	H28取組内容		
決算審査に伴う常任委員会における意見等		(委員からの意見等) 特になし	

事業の活動量・実績の数値化 活動指標	指標名		単位		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	①	国指定文化財の件数	件	計画	-	10	11	11	11	11
				実績	9	10	11	11	11	-
	②			計画	-					
				実績						-
	③			計画	-					
				実績						-
〈記述欄〉※数値化できない場合										

もたらそうとする効果・成果の数値化 成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	①	指定文化財が適切に保存されている割合	%	計画	-	80	80	85	85	90
				実績	80	80	80	85	87	-
	②			計画	-					
				実績						-
	③			計画	-					
				実績						-
〈記述欄〉※数値化できない場合										

3 (Check) 事務事業の自己評価		
着眼点	チェック	判断理由
◆事業実施の妥当性を備えているか ・事業の目的が上位政策・施策に結びつくか ・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か(国・県・民間と競合していないか)	● 妥当である 概ね妥当である 妥当でない	文化財保護法等により、文化財の保存が適切に図られるよう必要な措置を講じ、指導・助言を行うのは地方公共団体の任務である。
◆活動内容は有効なものとなっているか ・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか(成果をこれ以上伸ばすことはできないか)	● 有効である 概ね有効である 有効でない	各指定文化財については、平成28年熊本地震をはじめとする災害発生時等には被害確認を行っており、き損が発生した場合も修理補助等を所有者の申請に基づき実施している。 また、死亡等の諸事情による所有者変更が遅れることもあるが、これにより文化財の復旧等が滞る事態は少なく、事業は順調に推移し成果目標を達成している。
◆実施方法は現行どおりでよい ・民間委託、指定管理者制度の導入などにより、成果を下げずにコストを削減することは可能か ・目的や形態が類似、関連する事業との統合・連携によりコストの削減は可能か ・現状の成果を下げずに非常勤職員等による対応その他の方法により、人件費を削減することは可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担を見直す必要があるか(引上げ・引下げ・新たな負担・廃止)	● 現行どおりでよい 見直しが必要	可能な範囲で地域団体等に管理委託しており、統合・連携できる事業はない。 また、文化財に関する知識が必要で、所有者等との協議にあたらなければならないため、非常勤職員等では対応できない。 文化財の保存管理費は、文化財所有者の自己負担が原則であり、修理の際の補助率についても市条例等で定めがある。

4 (Action) 事務事業の方向性と改革改善			
今後の方向性 (該当欄を選択)		1 不要(廃止) 2 民間実施 3 市による実施(民間委託の拡大・市民等との協働等) 4 市による実施(要改善) ● 5 市による実施(現行どおり) 6 市による実施(規模拡充)	
今後の方向性の理由、改革改善の取組等		(今後の方向性の理由、改革改善の取組ともたらそうとする効果など) 文化財の保存管理は所有者の義務だが、文化財の保護に関して、その保存が適切に行われ公開活用が図られるよう必要な措置を講じ、指導・助言を行うのは地方公共団体の任務であるため、市により実施する。	
外部評価の実施		実施年度	
改善進捗状況等	H28進捗状況		
	H28取組内容		
決算審査に伴う常任委員会における意見等		(委員からの意見等) 特になし	

事業の活動量・実績の数値化 活動指標	指標名		単位		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	①	埋蔵文化財展示・貸出し件数		計画	-	20	20	20	20	20
				実績	20	20	20	20	20	-
	②			計画	-					
				実績						-
	③			計画	-					
				実績						-
	〈記述欄〉※数値化できない場合									
もたらそうとする効果・成果の数値化 成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	①			計画	-					
				実績						-
	②			計画	-					
				実績						-
	③			計画	-					
				実績						-
	〈記述欄〉※数値化できない場合									
	成果は展示を見た人の数で測定することができるが、個別に貸出先における見学者数等を把握することが困難であるため、設定せず。									

3 (Check) 事務事業の自己評価		
着眼点	チェック	判断理由
◆事業実施の妥当性を備えているか ・事業の目的が上位政策・施策に結びつくか ・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か(国・県・民間と競合していないか)	● 妥当である 概ね妥当である 妥当でない	文化財保護法により、市内から出土した遺物の保存管理は市が行わなければならないため、市が本事業を行うのは妥当である。 八代の歴史と文化に関する市民の関心は高まっており、八代の歴史を物語る出土遺物の保存と活用を図る役割は薄れていない。
◆活動内容は有効なものとなっているか ・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか(成果をこれ以上伸ばすことはできないか)	有効である ● 概ね有効である 有効でない	展示実績は目標達成しているものの、出土遺物を保管している西部社会教育センターの環境が思わしくなく、出土遺物を活用した体験活動等を実施できないなどの課題がある。
◆実施方法は現行どおりでよいか ・民間委託、指定管理者制度の導入などにより、成果を下げずにコストを削減することは可能か ・目的や形態が類似、関連する事業との統合・連携によりコストの削減は可能か ・現状の成果を下げずに非常勤職員等による対応その他の方法により、人件費を削減することは可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担を見直す必要があるか(引上げ・引下げ・新たな負担・廃止)	● 現行どおりでよい 見直しが必要	現状では出土遺物の保管について、最低限の維持費用しかかけていない。 現在一部の事務について民間に委託して事務の効率化を図っている。

4 (Action) 事務事業の方向性と改革改善			
今後の方向性 (該当欄を選択)		1 不要(廃止) 2 民間実施 3 市による実施(民間委託の拡大・市民等との協働等) 4 市による実施(要改善) ● 5 市による実施(現行どおり) 6 市による実施(規模拡充)	
今後の方向性の理由、改革改善の取組等		(今後の方向性の理由、改革改善の取組ともたらそうとする効果など) 市内の遺跡から出土した文化財や発掘調査の記録・写真類は、地域の歴史や文化の成立を考える上で、欠くことのできない貴重な財産であり、今後のまちづくりの資源としても活用できることから、文化財保護法等に基づき適正に管理する必要がある。また、出土遺物の適正な管理と体験活動を効果的に実施するための施設整備の必要性も認識している。	
外部評価の実施		実施年度	
改善進捗状況等	H28進捗状況		
	H28取組内容		
決算審査に伴う常任委員会における意見等		特になし (委員からの意見等)	

事業の活動量・実績の数値化	指標名		単位		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	①	史跡めぐり実施回数	回	計画	-	3	3	3	3	3
				実績	3	3	3	6	2	-
	②	出前講座実施回数	回	計画	-	20	20	20	20	20
				実績	18	21	24	24	8	-
	③			計画	-					
				実績						-
〈記述欄〉※数値化できない場合										
もたらそうとする効果・成果の数値化	指標名	指標設定の考え方	単位		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	①	史跡めぐり等参加者の満足した割合	%	計画	-	80	80	80	80	80
				実績		85	90	80	85	-
	②			計画	-					
				実績						-
	③			計画	-					
				実績						-
〈記述欄〉※数値化できない場合										

3 (Check) 事務事業の自己評価		
着眼点	チェック	判断理由
◆事業実施の妥当性を備えているか ・事業の目的が上位政策・施策に結びつくか ・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か(国・県・民間と競合していないか)	● 妥当である 概ね妥当である 妥当でない	八代の歴史と文化に対する市民の関心や期待感を高め、歴史を活かしたまちづくりに参画してもらうための機運を醸成するために、本事業を実施している。市内にある文化財について、広範囲に把握したり、文化財的な価値について公平公正な位置づけができるのは市だけであり、本事業を行うのは妥当である。
◆活動内容は有効なものとなっているか ・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか(成果をこれ以上伸ばすことはできないか)	有効である ● 概ね有効である 有効でない	平成22年度以降、小学校における史跡めぐり事業が廃止されたことにより、子どもたちを対象にした史跡めぐりを実施している。出前講座の依頼件数については熊本地震の影響もあり減少しており、学校単位での出前講座の働きかけなども必要である。
◆実施方法は現行どおりでよい ・民間委託、指定管理者制度の導入などにより、成果を下げずにコストを削減することは可能か ・目的や形態が類似、関連する事業との統合・連携によりコストの削減は可能か ・現状の成果を下げずに非常勤職員等による対応その他の方法により、人件費を削減することは可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担を見直す必要があるか(引上げ・引下げ・新たな負担・廃止)	現行どおりでよい ● 見直しが必要	観光ガイド等の統合・連携を行い、やつしろ観光ガイド協会(事務局:文化振興課)が発足したことから、史跡めぐり事業等の民間委託を検討する。史跡めぐり参加者は、現行は参加費無料であるが、受益者負担を検討する余地がある。

4 (Action) 事務事業の方向性と改革改善			
今後の方向性 (該当欄を選択)		1 不要(廃止) 2 民間実施 ● 3 市による実施(民間委託の拡大・市民等との協働等) 4 市による実施(要改善) 5 市による実施(現行どおり) 6 市による実施(規模拡充)	
今後の方向性の理由、改革改善の取組等		(今後の方向性の理由、改革改善の取組ともたらそうとする効果など) 平成27年度に設立された「やつしろ観光ガイド協会」と連携し、市民（特に子どもたち）を対象とした史跡めぐりや出前講座の実施を継続し、文化財保護啓発を行っていききたい。併せて、平成28年熊本地震で被災した八代城跡の復旧の取り組みについての見学会の開催や、麦島城跡については地元住民自治協議会等と連携し、環境整備や史跡めぐり等を行いたい。また、学校や市の関係各課、民間の関係機関とも連携して広く文化財の周知を行い、文化財保護への理解者を増やしたい。	
外部評価の実施			実施年度
改善進捗状況等	H28進捗状況		
	H28取組内容		
決算審査に伴う常任委員会における意見等		(委員からの意見等) 特になし	

事業の活動量・実績の数値化 活動指標	指標名		単位		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	①	包蔵地確認件数	件	計画	-	1200	1200	1200	1200	1200
				実績	1155	1253	1178	1111	1109	-
	②	埋蔵文化財発掘の届出・通知件数	件	計画	-	80	80	80	80	80
				実績	79	86	81	98	75	-
	③	試掘確認調査件数	件	計画	-	25	25	25	25	25
				実績	24	24	16	35	19	-
〈記述欄〉※数値化できない場合										
もたらそうとする効果・成果の数値化 成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	①	発掘の届出全体における60日前に届出が行われた割合	%	計画	-	40	45	50	55	60
				実績	39	29.8	43.5	33.3	19.0	-
	②			計画	-					
				実績						-
	③			計画	-					
				実績						-
〈記述欄〉※数値化できない場合										

3 (Check) 事務事業の自己評価		
着眼点	チェック	判断理由
◆事業実施の妥当性を備えているか ・事業の目的が上位政策・施策に結びつくか ・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か(国・県・民間と競合していないか)	● 妥当である 概ね妥当である 妥当でない	本事業は、「文化財保護法」に基づく法定業務であり、地方公共団体は、文化財の保存が適切に行われるよう周到の注意をもってこの法律の趣旨の徹底に努めなければならないことから、国や県と各々役割を分担し、行っている。
◆活動内容は有効なものとなっているか ・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか(成果をこれ以上伸ばすことはできないか)	● 有効である 概ね有効である 有効でない	埋蔵文化財発掘の届出について、建設業者や地下埋設事業者への周知は随時行っており、成果目標の達成に向け引き続き届出の必要性について、市民への周知を図っていく。 届出事務は法定業務であるため、見直しの余地はないが、災害発生時の対応については、弾力的な運用が必要である。
◆実施方法は現行どおりでよい ・民間委託、指定管理者制度の導入などにより、成果を下げずにコストを削減することは可能か ・目的や形態が類似、関連する事業との統合・連携によりコストの削減は可能か ・現状の成果を下げずに非常勤職員等による対応その他の方法により、人件費を削減することは可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担を見直す必要があるか(引上げ・引下げ・新たな負担・廃止)	● 現行どおりでよい 見直しが必要	文化庁の指導に基づき、各種開発に伴う調査や手続きにおいて遺跡の保存・取扱いに対する行政判断が必要となる業務であるため、民間委託はできない。 また、県の指導により発掘調査においては職員の常駐が必要なことと併せ、埋蔵文化財に関する専門知識と経験、八代の歴史文化に精通していることが必要となるため、非常勤職員等では対応できない。

4 (Action) 事務事業の方向性と改革改善			
今後の方向性 (該当欄を選択)		1 不要(廃止) 2 民間実施 3 市による実施(民間委託の拡大・市民等との協働等) 4 市による実施(要改善) ● 5 市による実施(現行どおり) 6 市による実施(規模拡充)	
今後の方向性の理由、改革改善の取組等		(今後の方向性の理由、改革改善の取組ともたらそうとする効果など) 法定業務であるため、市が行う必要がある。 工事を行う際には60日前までに市を通じて、熊本県教育委員会へ届出が必要なことをホームページ・市報・FM放送等により広く周知することで、直前の提出や未届工事件数の減少を目指す。これにより、県への副申作業が円滑に進み、開発行為からの遺跡の適正な保存が図られる。災害時の対応について弾力的な運用を検討する必要があるとともに、震災復興に伴い増加すると考えられる届出・通知や各種調査に対応できるよう、体制の確立を図る必要がある。	
外部評価の実施		実施年度	
改善進捗状況等	H28進捗状況		
	H28取組内容		
決算審査に伴う常任委員会における意見等		特になし (委員からの意見等)	

事業の活動量・実績の数値化 活動指標	指標名		単位		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	①	水島の定期的観測（岩体の崩落がないか、植生はどうかなど）		計画	-	6	6	6	6	6
				実績	5	6	6	6	8	-
	②	水島の除草作業		計画	-	1	2	2	2	2
				実績	1	1	1	1	0	-
	③	水島を学ぶ史跡めぐり・研修等の実施		計画	-	3	4	4	4	4
				実績	3	3	3	3	0	-
〈記述欄〉※数値化できない場合										
もたらそうとする効果・成果の数値化 成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	①			計画	-					
				実績						-
	②			計画	-					
				実績						-
	③			計画	-					
				実績						-
〈記述欄〉※数値化できない場合										
水島への見学者は確実に増えていると思われるが、数値として把握することが難しい。										

3 (Check) 事務事業の自己評価		
着眼点	チェック	判断理由
◆事業実施の妥当性を備えているか ・事業の目的が上位政策・施策に結びつくか ・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か（国・県・民間と競合していないか）	● 妥当である 概ね妥当である 妥当でない	名勝「不知火及び水島」として国の指定を受けたことにより、八代市の誇りとして市民の関心は高まっており、観光・学習のため訪れる方も増えており、本文化財の保存管理を行う本事業の役割は薄れていない。水島は市有地であり、市が所有者となっている。
◆活動内容は有効なものとなっているか ・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか（成果をこれ以上伸ばすことはできないか）	有効である ● 概ね有効である 有効でない	国指定から保存管理計画の策定までは順調に進んでいるが、本格的な保存整備工事には多額の費用がかかる見込まれるため、着工時期の見通しは立っていない。
◆実施方法は現行どおりでよい ・民間委託、指定管理者制度の導入などにより、成果を下げずにコストを削減することは可能か ・目的や形態が類似、関連する事業との統合・連携によりコストの削減は可能か ・現状の成果を下げずに非常勤職員等による対応その他の方法により、人件費を削減することは可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担を見直す必要があるか（引上げ・引下げ・新たな負担・廃止）	● 現行どおりでよい 見直しが必要	水島の文化財としての保存管理は、所有者である市が行わなければならない。実施計画・工事の策定や業務監理を民間に業務委託することは可能である。指定文化財保存管理事業との統合・連携は可能と思われるが、コストの削減にはつながらない。

4 (Action) 事務事業の方向性と改革改善			
今後の方向性 (該当欄を選択)		1 不要(廃止) 2 民間実施 3 市による実施(民間委託の拡大・市民等との協働等) 4 市による実施(要改善) ● 5 市による実施(現行どおり) 6 市による実施(規模拡充)	
今後の方向性の理由、改革改善の取組等		(今後の方向性の理由、改革改善の取組ともたらそうとする効果など) 当面、水島の日常的な保存管理を続けながら、本格的保存整備工事の必要性について、市民全体の理解が得られるよう周知に努め、しかるべき時期に工事が円滑に実施できるよう必要な諸準備を進める。	
外部評価の実施		実施年度	
改善進捗状況等	H28進捗状況		
	H28取組内容		
決算審査に伴う常任委員会における意見等		(委員からの意見等) 特になし	

事業の活動量・実績の数値化	指標名		単位		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	①	保存修理計画検討会議開催数	回	計画	-	2	0	-	-	-
				実績	2	2	0	-	-	-
	②	保存修理委員会開催数	回	計画	-	-	1	2	2	2
				実績	-	-	0	0	2	-
	③	妙見祭に関する講座、史跡めぐり等の開催	回	計画	-	2	3	4	4	4
実績				2	2	3	5	4	-	
〈記述欄〉※数値化できない場合										
もたらそうとする効果・成果の数値化	指標名	指標設定の考え方	単位		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	①	保存修理計画策定の進捗度	%	計画	-	80	100			
				実績	40	80	100			-
	②	保存修理計画に基づき新調・修理を行った件数	件	計画	-	-	-	3	3	3
				実績	-	-	-	7	5	-
	③			計画	-					
実績									-	
〈記述欄〉※数値化できない場合										

3 (Check) 事務事業の自己評価		
着眼点	チェック	判断理由
◆事業実施の妥当性を備えているか ・事業の目的が上位政策・施策に結びつくか ・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か(国・県・民間と競合していないか)	● 妥当である 概ね妥当である 妥当でない	「八代妙見祭の神幸行事」として国重要無形民俗文化財に指定され、平成28年にはユネスコ無形文化遺産へ登録されたこともあり、本文化財に対する市民の関心が高く、また、経年使用による部材等の復元修復を行う本事業の役割は薄れていない。 文化財の保護に関して、その保存が適切に図られるよう必要な措置を講じ、指導・助言を行うのは地方公共団体の任務である。
◆活動内容は有効なものとなっているか ・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか(成果をこれ以上伸ばすことはできないか)	● 有効である 概ね有効である 有効でない	保存修理計画を策定するなど、目標は達成している。 成果目標については概ね順調に推移しているが、出し物の修理については、所有者の自己負担が発生するため、所有者の意向と財務状況に応じて修理件数の変動がある。
◆実施方法は現行どおりでよいか ・民間委託、指定管理者制度の導入などにより、成果を下げずにコストを削減することは可能か ・目的や形態が類似、関連する事業との統合・連携によりコストの削減は可能か ・現状の成果を下げずに非常勤職員等による対応その他の方法により、人件費を削減することは可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担を見直す必要があるか(引上げ・引下げ・新たな負担・廃止)	● 現行どおりでよい 見直しが必要	文化財の専門知識と経験、八代の歴史文化に精通していることが必要のため、常時調査研究に従事する必要があり、非常勤職員等では対応できない。 また、保存修復にかかる費用は補助要項等に定められており、所有者の一部負担もあることから見直しの必要はない。

4 (Action) 事務事業の方向性と改革改善			
今後の方向性 (該当欄を選択)		1 不要(廃止) 2 民間実施 3 市による実施(民間委託の拡大・市民等との協働等) 4 市による実施(要改善) 5 市による実施(現行どおり) ● 6 市による実施(規模拡充)	
今後の方向性の理由、改革改善の取組等		(今後の方向性の理由、改革改善の取組ともたらそうとする効果など) 文化財及び補助申請等の手続き等に関する専門知識を要する業務であり、国指定文化財の価値を担保するためにも、市が実施する必要がある。 ふるさと創生事業を活用した修復から25年が経過しており、適切な公開活用と保存継承を図るためにも保存団体と協議しながら保存修理方針の改定を行い、計画的な修理事業を進め、後継者の育成や修理費用の確保など文化財を支えるさまざまなしくみを整えていく必要がある。	
外部評価の実施			
改善進捗状況等	H28進捗状況		
	H28取組内容		
決算審査に伴う常任委員会における意見等		特になし (委員からの意見等)	

No	4280679
----	---------

事務事業票

所管部長等名	經濟文化交流部長 辻本 士誠
所管課・係名	文化振興課 文化財係
課長名	一村 勲

評価対象年度	平成28年度
--------	--------

1 (Plan) 事務事業の計画

事務事業名		市内城跡保存管理事業		会計区分	01 一般会計				
				款項目コード(款-項-目)	9	—	7	—	6
施策の体系 (八代市総合計画に おける位置づけ)	基本目標(章)	2	郷土を拓く人を育むまち	事業コード(大-中-小)	2	—	41	—	09
	施策の大綱(節)【政策】	4	文化のかおり高いまちづくり	総合戦略での 位置づけ	基本目標	4	“やつしろ”の発展を支えるま ちづくり		
	施策の展開(項)【施策】	1	伝統の継承・活用と八代の文化の創造		施策大項目	1	誇れるふるさとづくり		
	具体的な施策と内容	1	文化財の保存・活用と伝承文化の継承		施策小項目	1	特色ある地域づくり		
事務事業の概要 (全体事業の内容)		八代の歴史にとって重要な遺跡である八代城跡(古麓城跡、麦島城跡、松江城跡)とその関連遺跡について、シンボリックな存在になるよう国指定史跡化を進め、適切な保存・管理と活用を図る。 ・平成15年度より三城跡の国指定史跡化の事務を進め、平成26年3月18日、「八代城跡群 古麓城跡 麦島城跡 八代城跡」として国史跡に指定された。 ・平成27・28・29年度に国庫補助を利用し、保存活用計画を策定中である。 ・平成30年度以降、国庫補助を利用し、指定地内の保存整備を開始する予定。							
実施手法 (該当欄を選択)		☐ 全部直営 ☒ 一部委託 ☐ 全部委託 ☐ その他(							

2 (Do) 事務事業の実施

評価対象年度の事業内容等

対 象 (誰・何を)	国指定史跡「八代城跡群 古麓城跡 麦島城跡 松江城跡」を構成する古麓城跡、麦島城跡、八代城跡、平山瓦窯跡及び国指定名勝「旧熊本藩八代城主浜御茶屋(松浜軒)庭園」							
	事業内容(手段、方法等)		成果目標(どのような効果をもたらしたいのか)					
		八代を代表する史跡である八代城跡(古麓城跡、麦島城跡、松江城跡)が、国指定史跡に指定されることにより、わが国を代表する遺跡として保存が図られ、八代の宝として市民の誇りとなり、観光や地域振興、郷土学習等に広く役立つように活用が図られること。						

事業の活動量・実績の数値化 活動指標	指標名		単位		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	①	国史跡指定及び保存活用計画策定に必要な国・県・関係機関との協議・会議を行った。	回	計画	-	2	1	2	2	3
				実績	2	2	2	2	2	-
	②	八代城跡に関する史跡めぐりの実施回数。	回	計画	-	1	2	2	2	4
				実績	1	1	2	2	1	-
	③			計画	-					
				実績						-
〈記述欄〉※数値化できない場合										
もたらそうとする効果・成果の数値化 成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	①	国指定を受けるまでの進捗度	%	計画	-	100	-	-	-	-
				実績	90	100	-	-	-	-
	②	保存活用計画策定までの進捗度	%	計画	-	-	10	30	50	100
				実績	-	-	0	25	50	-
	③			計画	-					
				実績						-
〈記述欄〉※数値化できない場合										

3 (Check) 事務事業の自己評価		
着眼点	チェック	判断理由
◆事業実施の妥当性を備えているか ・事業の目的が上位政策・施策に結びつくか ・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か(国・県・民間と競合していないか)	● 妥当である 概ね妥当である 妥当でない	「八代城跡群」として国指定を受けたことにより、八代市の誇りとして市民の関心は高まっており、その適切な保存活用を行う本事業の役割は薄れていない。文化財の保護に関して、その保存が適切に図られるよう必要な措置を講じ、文化財所有者に指導・助言を行うのは地方公共団体の任務である。
◆活動内容は有効なものとなっているか ・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか(成果をこれ以上伸ばすことはできないか)	● 有効である 概ね有効である 有効でない	国・県・関係機関との協議を重ね、国有林野部分の追加指定を受ける等、達成状況は順調である。史跡めぐりは熊本地震の影響もあり1回の開催となったが、地震からの復旧の取り組みが実感できる史跡めぐりを開催することができた。
◆実施方法は現行どおりでよいか ・民間委託、指定管理者制度の導入などにより、成果を下げずにコストを削減することは可能か ・目的や形態が類似、関連する事業との統合・連携によりコストの削減は可能か ・現状の成果を下げずに非常勤職員等による対応その他の方法により、人件費を削減することは可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担を見直す必要があるか(引上げ・引下げ・新たな負担・廃止)	● 現行どおりでよい 見直しが必要	文化財保護法により、国指定や保存活用計画の策定は、市が行わなければならない。調査等、必要に応じて民間委託を導入することは可能である。文化財指定業務に関しては、統合・連携する業務はない。文化財の保護に関する専門知識と経験、八代の歴史文化に精通していることが必要なため、非常勤職員では対応できない業務である。

4 (Action) 事務事業の方向性と改革改善			
今後の方向性 (該当欄を選択)		1 不要(廃止) 2 民間実施 3 市による実施(民間委託の拡大・市民等との協働等) 4 市による実施(要改善) 5 市による実施(現行どおり) ● 6 市による実施(規模拡充)	
今後の方向性の理由、改革改善の取組等		(今後の方向性の理由、改革改善の取組ともたらそうとする効果など) 保存活用計画の策定や計画に基づく事業等、今後も市が実施していく必要がある。 国指定文化財を適切に保存活用するため、市の責任も重くなるため、必要な諸手続きを着実に進め、文化財の将来にわたる適切な保存・活用を図る。併せて、関係部署との連携をいっそう深め、観光や地域振興、郷土学習等への情報提供に努めることにより、市民への浸透を図り、八代のシンボルとして活用を図る。	
外部評価の実施		実施年度	
改善進捗状況等	H28進捗状況		
	H28取組内容		
決算審査に伴う常任委員会における意見等		(委員からの意見等) 特になし	

No	4280682
----	---------

事務事業票

所管部長等名	經濟文化交流部長 辻本 士誠
所管課・係名	文化振興課 文化財係
課長名	一村 勲

評価対象年度	平成28年度
--------	--------

1 (Plan) 事務事業の計画

事務事業名	指定文化財復旧事業(災害関連)			会計区分	01 一般会計				
				款項目コード(款-項-目)	9	—	7	—	6
施策の体系 (八代市総合計画に おける位置づけ)	基本目標(章)	2	郷土を拓く人を育むまち	事業コード(大-中-小)	2	—	41	—	40
	施策の大綱(節)【政策】	4	文化のかおり高いまちづくり	総合戦略での 位置づけ	基本目標				
	施策の展開(項)【施策】	1	伝統の継承・活用と八代の文化の創造		施策大項目				
	具体的な施策と内容	1	文化財の保存・活用と伝承文化の継承		施策小項目				
事務事業の概要 (全体事業の内容)	平成28年熊本地震で被災した各指定文化財について、災害復旧工事を行い八代に残る貴重な文化財の保護を図る。 八代市が管理団体の指定をうけている国指定史跡「八代城跡群 古麓城跡 麦島城跡 八代城跡」の八代城跡本丸石垣については、文化庁及び熊本県の補助を得て復旧に取り組む。 事業主体者が個人となっている指定文化財については、災害復旧費の一部を補助し早期の復旧の手助けを行う。								
実施手法 (該当欄を選択)	☐ 全部直営								

2 (Do) 事務事業の実施

評価対象年度の事業内容等

対 象 (誰・何を)		国指定史跡「八代城跡群 古麓城跡 麦島城跡 八代城跡」のうち八代城跡をはじめとする被災指定文化財						
事業内容(手段、方法等)		成果目標(どのような効果をもたらしたいのか)						
・平成28年熊本地震で被災して崩壊した八代城跡本丸石垣の現況を記録し、崩壊状況を確認し、石垣の構造や石材の状況等を調査した上で、現況に復する。 ・個人所有の被災指定文化財への復旧費の一部補助		石垣の保存修復を行い、国指定史跡として復旧を図るとともに、個人所有の被災文化財の復旧費の一部を補助し、負担感の軽減を図る。						
コスト推移		26年度決算	27年度決算	28年度決算	29年度予算	30年度見込	31年度見込	32年度見込
事業費(直接経費) (単位:千円)				46,222	54,315			
財 源 内 訳	国県支出金			32,777	40,407			
	地方債							
	その他特定財源(特別会計→繰入金)			13,445	13,908			
	一般財源(特別会計→事業収入)							

事業の活動量・実績の数値化 活動指標	指標名		単位		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	①	石垣修復見学会の開催回数	回	計画	-				1	4
				実績					1	-
	②			計画	-					
				実績						-
	③			計画	-					
				実績						-
〈記述欄〉※数値化できない場合										
もたらそうとする効果・成果の数値化 成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	① 指定文化財の復旧度	熊本地震により被災した文化財のうち補助金等を活用し復旧した件数	件	計画	-				15	15
				実績					12	-
	②			計画	-					
				実績						-
	③			計画	-					
				実績						-
〈記述欄〉※数値化できない場合										

3 (Check) 事務事業の自己評価		
着眼点	チェック	判断理由
◆事業実施の妥当性を備えているか ・事業の目的が上位政策・施策に結びつくか ・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か(国・県・民間と競合していないか)	● 妥当である 概ね妥当である 妥当でない	八代市は国指定史跡「八代城跡群」の管理団体であり、石垣の保存修復を適切に実施することは義務である。 八代城跡は国指定史跡「八代城跡群」を構成する城跡であり、熊本地震からの復興のシンボルとして市民の関心は高まっており、被災からの復旧を目指す本事業の役割は薄れていない。
◆活動内容は有効なものとなっているか ・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか(成果をこれ以上伸ばすことはできないか)	● 有効である 概ね有効である 有効でない	八代城跡本丸石垣の保存修復状況は順調に進んでおり、その他の個人所有の文化財の復旧状況も概ね順調である。
◆実施方法は現行どおりでよい ・民間委託、指定管理者制度の導入などにより、成果を下げずにコストを削減することは可能か ・目的や形態が類似、関連する事業との統合・連携によりコストの削減は可能か ・現状の成果を下げずに非常勤職員等による対応その他の方法により、人件費を削減することは可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担を見直す必要があるか(引上げ・引下げ・新たな負担・廃止)	● 現行どおりでよい 見直しが必要	文化財保護法に基づき、国指定史跡の管理団体である八代市が実施する義務を負う。石垣の保存修復作業等、必要に応じて民間委託を導入することは可能である。 指定文化財の保存修復に関しては、統合・連携する業務はない。 文化財の保護に関する専門知識と経験、八代の歴史文化に精通していることが必要のため、非常勤職員では対応できない業務である。

4 (Action) 事務事業の方向性と改革改善			
今後の方向性 (該当欄を選択)		1 不要(廃止) 2 民間実施 3 市による実施(民間委託の拡大・市民等との協働等) 4 市による実施(要改善) ● 5 市による実施(現行どおり) 6 市による実施(規模拡充)	
今後の方向性の理由、改革改善の取組等		(今後の方向性の理由、改革改善の取組ともたらそうとする効果など) 文化財の保存管理は所有者の義務だが、文化財の保護に関して、その保存が適切に行われ公開活用が図られるよう必要な措置を講じ、指導・助言を行うのは地方公共団体の任務であることから、引き続き所有者に対して被災文化財が確実に復旧するよう促していく。	
外部評価の実施		実施年度	
改善進捗状況等	H28進捗状況		
	H28取組内容		
決算審査に伴う常任委員会における意見等		(委員からの意見等) 特になし	

1 (Plan) 事務事業の計画

事務事業名	無形文化遺産等活用事業(創生加速化)			会計区分	01 一般会計				
				款項目コード(款-項-目)	9	—	7	—	6
施策の体系 (八代市総合計画に おける位置づけ)	基本目標(章)	2	郷土を拓く人を育むまち	事業コード(大-中-小)	2	—	41	—	38
	施策の大綱(節)【政策】	4	文化のかおり高いまちづくり	総合戦略での 位置づけ	基本目標				
	施策の展開(項)【施策】	1	伝統の継承・活用と八代の文化の創造		施策大項目				
	具体的な施策と内容	2	芸術・文化活動の推進		施策小項目				
事務事業の概要 (全体事業の内容)	本市に伝承される多様な民俗文化財の保存継承並びにそれらを活用した観光誘客の促進を図る。 特に、八代妙見祭がユネスコ無形文化遺産に登録見込みであり、国内外から注目されることが予想されることから、ユネスコ登録に関係したPR事業、誘客促進事業を行うもの。								
実施手法 (該当欄を選択)	☐ 全部直営 ☐ 一部委託 ☐ 全部委託 ☒ その他(八代妙見祭保存振興会等へ一部補助)								
補助金事業該当	☐ 補助金(主な補助先:)※予算の全てが補助金支出である場合に記入。								
根拠法令、要綱等	「八代市伝統文化活性化事業補助金交付要領」等								
事業期間	開始年度		終了年度		法令による実施義務 (該当欄を選択)	☐ 1 義務である ☒ 2 義務ではない			
	平成27年度		平成28年度						

2 (Do) 事務事業の実施

評価対象年度の事業内容等

対 象 (誰・何を)	八代妙見祭保存振興会、八代市伝統文化活性化協議会、八代市民俗文化財保存連合会、やつしろ観光ガイド協会							
事業内容(手段、方法等)				成果目標(どのような効果をもたらしたいのか)				
①八代妙見祭とユネスコ無形文化遺産登録PR事業 ユネスコ登録PR補助 1,300千円 妙見宮絵巻複製作成 3,500千円 等 ②無形民俗文化財保存事業 無形民俗文化財映像化 4,000千円 無形民俗文化財衣装等整備 3,744千円 等 ③観光ガイド支援事業 観光ガイド業務委託 1,226千円 等 ④文化財保存整備事業 妙見祭笠鉾部材等整備 5,000千円				①八代妙見祭のユネスコ無形文化遺産登録の意義を多くの市民に周知し、地域活性化及び観光誘客を図る。 ②各行事の現状を正確に伝えるための、映像及び音声の記録を行う。映像記録を基に、ホームページ公開用のコンテンツ制作を行う。 人口減少や後継者不足等の影響で整備が遅れた、祭礼衣装や用具の新調を行う。 ③平成27年度に新たに設立された観光ガイド協会の活動支援を図る。 ④文化財として高い価値を有する笠鉾の修理技術の継承を図る。				
コスト推移		26年度決算	27年度決算	28年度決算	29年度予算	30年度見込	31年度見込	32年度見込
事業費(直接経費) (単位:千円)				29,715				
財 源 内 訳	国県支出金			29,715				
	地方債							
	その他特定財源(特別会計→繰入金)							
	一般財源(特別会計→事業収入)							

事業の活動量・実績の数値化		指標名	単位		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
①	無形民俗文化財の映像記録件数	件	計画	-				0	25	
			実績				0	25	-	
②	観光ガイド派遣者数（延べ人員）	人	計画	-				20	200	
			実績				20	358	-	
③			計画	-						
			実績							-
〈記述欄〉※数値化できない場合										

もたらそうとする効果・成果の数値化		指標名	指標設定の考え方	単位		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
①	シンポジウム開催時のアンケートによる認知度の把握	ユネスコ無形文化遺産をはじめとする民俗文化財への認知度・理解度が深まったとの回答者数／アンケート有効回答者	%	計画	-				20	50	
				実績					-	70	-
②				計画	-						
				実績							
③				計画	-						
				実績							
〈記述欄〉※数値化できない場合											

3（Check）事務事業の自己評価		
着眼点	チェック	判断理由
◆事業実施の妥当性を備えているか ・事業の目的が上位政策・施策に結びつくか ・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か（国・県・民間と競合していないか）	● 妥当である 概ね妥当である 妥当でない	「八代妙見祭の神幸行事」は国重要無形民俗文化財に指定され、平成28年度にユネスコ無形文化遺産へ登録されるなど、本文化財に対する市民の関心は高まりを見せているので、本事業の果たす役割は大きい。積極的なPRを行うことで、貴重な文化財の保存活用について周知が図られることは、伝統文化財の後継者育成にもつながるため、事業は妥当である。
◆活動内容は有効なものとなっているか ・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか（成果をこれ以上伸ばすことはできないか）	● 有効である 概ね有効である 有効でない	市内の民俗文化財の統轄団体である八代市民俗文化財保存連合会をはじめ、やつしろ観光ガイド協会が新たに立ち上がり、ガイドの派遣数も大幅に伸びるなど順調に推移している。
◆実施方法は現行どおりでよい ・民間委託、指定管理者制度の導入などにより、成果を下げずにコストを削減することは可能か ・目的や形態が類似、関連する事業との統合・連携によりコストの削減は可能か ・現状の成果を下げずに非常勤職員等による対応その他の方法により、人件費を削減することは可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担を見直す必要があるか（引上げ・引下げ・新たな負担・廃止）	● 現行どおりでよい 見直しが必要	八代妙見祭の保護団体である八代妙見祭保存振興会をはじめとする、各民俗文化財保持団体等と協働連携し、今後もより効果的なPRを検討する。

4 (Action) 事務事業の方向性と改革改善			
今後の方向性 (該当欄を選択)		● 1 不要(廃止) 2 民間実施 3 市による実施(民間委託の拡大・市民等との協働等) 4 市による実施(要改善) 5 市による実施(現行どおり) 6 市による実施(規模拡充)	
今後の方向性の理由、改革改善の取組等		(今後の方向性の理由、改革改善の取組ともたらそうとする効果など) 八代妙見祭についてユネスコ無形文化遺産登録後も積極的にPRすることと併せ、各民俗文化財の継承につながる取り組みや案内ガイド機能の強化を図ることで、八代の歴史と文化に触れる機会を増やし、文化財を活かした地域活性化と観光振興につながる取り組みを継続する必要がある。	
外部評価の実施		実施年度	
改善進捗状況等	H28進捗状況		
	H28取組内容		
決算審査に伴う常任委員会における意見等		(委員からの意見等) 特になし	

事業の活動量・実績の数値化 活動指標	指標名		単位		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	①	専門家・有識者による現地指導	回	計画	-				3	-
				実績					5	-
	②			計画	-					
				実績						-
	③			計画	-					
				実績						-
	〈記述欄〉※数値化できない場合									
	もたらそうとする効果・成果の数値化 成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
①		指定文化財の復旧度 熊本地震により被災した氏が所有する文化財のうち補助金等を活用し復旧した件数	件	計画	-				1	-
				実績					1	-
②				計画	-					
				実績						-
③				計画	-					
				実績						-
〈記述欄〉※数値化できない場合										

3 (Check) 事務事業の自己評価		
着眼点	チェック	判断理由
◆事業実施の妥当性を備えているか ・事業の目的が上位政策・施策に結びつくか ・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か(国・県・民間と競合していないか)	● 妥当である 概ね妥当である 妥当でない	八代市は熊本県指定史跡「大鞘樋門群」の所有者であり、被災した樋門の修復を適切に実施することは義務である。
◆活動内容は有効なものとなっているか ・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか(成果をこれ以上伸ばすことはできないか)	● 有効である 概ね有効である 有効でない	専門家や有識者による指導を得て、被災した樋門の袖石垣部の修復を実施し、事業は完了している。
◆実施方法は現行どおりでよいか ・民間委託、指定管理者制度の導入などにより、成果を下げずにコストを削減することは可能か ・目的や形態が類似、関連する事業との統合・連携によりコストの削減は可能か ・現状の成果を下げずに非常勤職員等による対応その他の方法により、人件費を削減することは可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担を見直す必要があるか(引上げ・引下げ・新たな負担・廃止)	● 現行どおりでよい 見直しが必要	文化財保護法に基づき、熊本県指定史跡の所有者である八代市が実施する義務を負う。被災した樋門の保存修復作業等、必要に応じて民間委託を導入しており、文化財の保護に関する専門知識と経験、八代の歴史文化に精通していることが必要なため、非常勤職員では対応できない業務である。

4 (Action) 事務事業の方向性と改革改善			
今後の方向性 (該当欄を選択)		● 1 不要(廃止) 2 民間実施 3 市による実施(民間委託の拡大・市民等との協働等) 4 市による実施(要改善) 5 市による実施(現行どおり) 6 市による実施(規模拡充)	
今後の方向性の理由、改革改善の取組等		(今後の方向性の理由、改革改善の取組ともたらそうとする効果など) 文化財の保存管理は所有者である八代市の義務であり、指定文化財の保存が適切に行われ公開活用が図られるよう必要な措置を講じていく必要がある。	
外部評価の実施		実施年度	
改善進捗状況等	H28進捗状況		
	H28取組内容		
決算審査に伴う常任委員会における意見等		(委員からの意見等) 特になし	

No	4280681
----	---------

事務事業票

所管部長等名	經濟文化交流部長 辻本 士誠
所管課・係名	文化振興課 文化財係
課長名	一村 勲

評価対象年度	平成28年度
--------	--------

1 (Plan) 事務事業の計画

事務事業名		伝統芸能伝承館整備事業		会計区分	01 一般会計					
				款項目コード(款-項-目)	9	—	7	—	6	
		基本目標(章)	2	郷土を拓く人を育むまち	事業コード(大-中-小)	2	—	41	—	39
施策の体系 (八代市総合計画に おける位置づけ)	施策の大綱(節)【政策】	4	文化のかおり高いまちづくり		総合戦略での 位置づけ	基本目標				
	施策の展開(項)【施策】	1	伝統の継承・活用と八代の文化の創造			施策大項目				
	具体的な施策と内容	3	文化施設の整備・充実			施策小項目				
事務事業の概要 (全体事業の内容)		平成28年にユネスコ無形文化遺産へ登録された「八代妙見祭」をはじめ、市内各所の無形民俗文化財保存団体においては、後継者育成や諸道具の収蔵施設の確保などが喫緊の課題となっている。 市内の地域文化財を支える様々な方策の一つとして、将来にわたる着実な保存継承とともに、公開による情報発信を行うことで各地域の伝統文化財を活かした本市の活性化が図られるよう、施設の建設整備を進める。								
実施手法 (該当欄を選択)		● 全部直営								

2 (Do) 事務事業の実施

評価対象年度の事業内容等

対 象 (誰・何を)		ユネスコ無形文化遺産「八代妙見祭」、その他の指定無形民俗文化財						
事業内容(手段、方法等)		成果目標(どのような効果をもたらしたいのか)						
建設整備に関する庁内検討会議の開催		八代妙見祭をはじめとする市内の無形民俗文化財は、祭礼行事の縮小に伴う披露機会の減少による市民の関心の低下や観光誘客数の減少が懸念されていることから、平成28年の八代妙見祭のユネスコ無形文化遺産登録を契機に、文化財の保存と情報発信ができる拠点整備を行うことで、八代妙見祭や市内の無形民俗文化財の保存継承と交流促進を図られる。						
コスト推移		26年度決算	27年度決算	28年度決算	29年度予算	30年度見込	31年度見込	32年度見込
事業費(直接経費) (単位:千円)				34	5,000	82,139	450,000	450,000
財源内訳	国県支出金							
	地方債					78,032	427,500	427,500
	その他特定財源(特別会計→繰入金)				5,000			
	一般財源(特別会計→事業収入)			34		4,107	22,500	22,500

事業の活動量・実績の数値化	指標名		単位		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	①	庁内検討会議（課長級・係長級）の開催回数	回	計画	-				6	-	
				実績					8	-	
	②	関係者への意見徴収回数	回	計画	-				4	2	
				実績					5	-	
	③			計画	-						
				実績						-	
	〈記述欄〉※数値化できない場合										
もたらそうとする効果・成果の数値化	指標名		指標設定の考え方	単位		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	①	伝承館が整備されるまでの進捗度	伝承館の整備完了が100とすると、それまでに必要な検討会議・実施計画等の進捗により達成度をみる。	%	計画	-	-	-	-	10	20
					実績	-	-	-	-	10	-
	②				計画	-					
					実績						
	③				計画	-					
					実績						
	〈記述欄〉※数値化できない場合										

3 (Check) 事務事業の自己評価		
着眼点	チェック	判断理由
◆事業実施の妥当性を備えているか ・事業の目的が上位政策・施策に結びつくか ・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か(国・県・民間と競合していないか)	● 妥当である 概ね妥当である 妥当でない	平成28年度に、民間4団体より提出された伝統芸能伝承館（仮称）整備方の陳情にもあるように、市内各地の指定無形民俗文化財の各団体は、後継者育成や諸道具の収蔵施設の確保などが喫緊の課題であり、将来にわたる着実な保存継承とともに、公開による情報発信を行うためにも、施設の整備を行う必要がある。
◆活動内容は有効なものとなっているか ・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか(成果をこれ以上伸ばすことはできないか)	● 有効である 概ね有効である 有効でない	平成28年度に建設整備に関する庁内検討会議を開催し、保存継承と交流促進による「伝統文化を活かした持続可能な地域おこし」を目指し、本市における伝統芸能の中核拠点としての施設整備の課題整理を行い、検討結果報告をとりまとめるなど、順調に推移している。
◆実施方法は現行どおりでよいか ・民間委託、指定管理者制度の導入などにより、成果を下げずにコストを削減することは可能か ・目的や形態が類似、関連する事業との統合・連携によりコストの削減は可能か ・現状の成果を下げずに非常勤職員等による対応その他の方法により、人件費を削減することは可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担を見直す必要があるか(引上げ・引下げ・新たな負担・廃止)	● 現行どおりでよい 見直しが必要	平成29年度には施設整備の基礎調査について民間委託する予定である。整備後の施設の運営に際しては、専門知識と経験が必要となり、また、収蔵品の展示や保管に際しては所有者である各保存団体との連携や調整があるため、調査研究に従事する専門職員の配置が必要である。

4 (Action) 事務事業の方向性と改革改善			
今後の方向性 (該当欄を選択)		1 不要(廃止) 2 民間実施 3 市による実施(民間委託の拡大・市民等との協働等) 4 市による実施(要改善) ● 5 市による実施(現行どおり) 6 市による実施(規模拡充)	
今後の方向性の理由、改革改善の取組等		(今後の方向性の理由、改革改善の取組ともたらそうとする効果など) 伝統文化財の将来への保存と継承が図られ、後継者育成と団体の維持発展につながるとともに、情報発信による地域間交流の活性化に寄与する施設として整備を行い、伝統文化を活かした持続可能な地域おこしを目指す様々なしくみを整えていく必要がある。	
外部評価の実施			
改善進捗状況等	H28進捗状況		
	H28取組内容		
決算審査に伴う常任委員会における意見等		(委員からの意見等) 特になし	

No	4280684
----	---------

事務事業票

所管部長等名	經濟文化交流部長 辻本 士誠
所管課・係名	文化振興課 厚生会館
課長名	一村 勲

評価対象年度	平成28年度
--------	--------

1 (Plan) 事務事業の計画

事務事業名		厚生会館・文化センター自主文化事業		会計区分	01 一般会計				
				款項目コード(款-項-目)	9	—	7	—	3
施策の体系 (八代市総合計画に おける位置づけ)	基本目標(章)	2	郷土を拓く人を育むまち	事業コード(大-中-小)	2	—	41	—	21
	施策の大綱(節)【政策】	4	文化のかおり高いまちづくり	総合戦略での 位置づけ	基本目標				
	施策の展開(項)【施策】	1	伝統の継承・活用と八代の文化の創造		施策大項目				
	具体的な施策と内容	2	芸術・文化活動の推進		施策小項目				
事務事業の概要 (全体事業の内容)		市民へ芸術文化鑑賞の機会を提供する「鑑賞普及型事業」、芸術文化に直接する「舞台芸術体験型事業」、中学・高校生の学習や発表の場となる「学習型事業」、ホワイエを利用して気軽に観覧できる「舞台芸術普及型事業」及び地域住民自身による運営・出演の「市民参加型事業」を企画し、実施する。							
実施手法 (該当欄を選択)		☐ 全部直営							

2 (Do) 事務事業の実施

評価対象年度の事業内容等

対 象 (誰・何を)	「鑑賞普及型」、「舞台芸術体験型」、「舞台芸術普及型」「住民参加型」は、広く市民を対象にし、「学習型」では市内中高校生を対象とする。								
	事業内容(手段、方法等)		成果目標(どのような効果をもたらしたいのか)						
鑑賞普及型 こんにやく座「口はロボットの口」(共催)、「浮足町アンダーグラウンド」(共催)、エグスプロージョン×ひとりできるもん「SUPERパフォーマンススライプ」、まちなか音楽祭(共催)、県劇ネットワーク事業「TRINITY」、あったかハートふれあい劇団20周年記念市民ミュージカル「みよちゃんとガメさん」(共催)、「綾戸智恵コンサート」、「八神純子コンサート」共催)、「紺野美紗子朗読座スマイルコンサート」 舞台芸術体験型 演劇ワークショップ 学習型 中学生音楽教室、高校演劇舞台技術講習会、八代市高校演劇大会、アウトリーチ事業「桂伸三落語会」(共催) 舞台芸術普及型 ホワイエライブ 舞台芸術活性化 ホワイエコンサート 住民参加型 かがみふるさと音楽祭			鑑賞普及型」の実施により、舞台芸術の鑑賞による感動を、「舞台芸術体験型」及び「住民参加型」では参加者に自ら実演することの楽しみを広く市民に感じてもらう。「学習型」では中高校生に音楽鑑賞や演劇発表の機会を提供することで、将来の文化芸術の担い手を育成する。また、「舞台芸術普及型」では文化芸術への楽しみを醸成する。						
コスト推移			26年度決算	27年度決算	28年度決算	29年度予算	30年度見込	31年度見込	32年度見込
事業費(直接経費) (単位:千円)			16,983	12,269	14,467	15,461	15,500	15,500	15,500
財 源 内 訳	国県支出金								
	地方債								
	その他特定財源(特別会計→繰入金)	5,738	3,900	4,697	5,204	5,000	5,000	5,000	
	一般財源(特別会計→事業収入)	11,245	8,369	9,770	10,257	10,500	10,500	10,500	

事業の活動量・実績の数値化	指標名		単位		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	①	「鑑賞普及型事業」の実施回数	回	計画	-	6	4	6	7	7	
				実績	7	6	4	6	9	-	
	②	「舞台芸術体験型事業」の実施回数	回	計画	-	2	3	3	3	3	
				実績	2	2	3	3	2	-	
	③	「学習型事業」の実施回数	回	計画	-	3	3	3	3	3	
				実績	3	3	3	3	3	-	
〈記述欄〉※数値化できない場合											
もたらそうとする効果・成果の数値化	指標名		指標設定の考え方	単位		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	①	「鑑賞普及型事業」への有料入場者数の平均	鑑賞機会の提供に対する市民の反応を計る。（計画の内訳として厚生会館600人、千丁文化センター315人、鏡文化センター350人をベースとする。）	人	計画	-	1265	1350	1350	1400	1350
					実績	877	1113	1730	3850	3537	-
	②	「舞台芸術体験型事業」への参加者数	舞台芸術への市民の興味や創造発表の意欲を参加人数で計る。	人	計画	-	60	130	130	130	90
					実績	29	34	111	81	46	-
	③	「学習型事業」への参加者数	将来の担い手育成につながる興味・度合いを参加者数で計る。	人	計画	-	1600	1600	1700	1700	1600
					実績	2050	1939	1535	1601	1761	-
〈記述欄〉※数値化できない場合											

3 (Check) 事務事業の自己評価		
着眼点	チェック	判断理由
◆事業実施の妥当性を備えているか ・事業の目的が上位政策・施策に結びつくか ・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か(国・県・民間と競合していないか)	● 妥当である 概ね妥当である 妥当でない	本事業は、「八代市総合計画」及び「八代市文化振興計画」において、実施していくことが明記されている。 各事業への観客ニーズは高く、特に「鑑賞普及型事業」については、アンケートで多種多様の公演実施の要望がある。 公演の企画や実施は、「劇場・音楽堂等の活性化に関する法律」で施設を設置運営する者が行う事業として定められている。
◆活動内容は有効なものとなっているか ・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか(成果をこれ以上伸ばすことはできないか)	有効である ● 概ね有効である 有効でない	「鑑賞普及型事業」は順調であるが、「舞台芸術体験型事業」については28年度は定員に対して参加者数が少なかった。これは、千丁文化センターが開館20周年ということで鑑賞普及型事業に傾注したためである。 「学習型事業」については観客数が若干増加しているものの、将来的に生徒数が減る傾向にある。 各事業の連動による効果的な宣伝やアンケート結果を考慮した公演演目の選定、よりよい内容をより低価格で実現するため各種助成事業等の活用などを図ることで、集客の増加につなげる必要がある。
◆実施方法は現行どおりでよい ・民間委託、指定管理者制度の導入などにより、成果を下げずにコストを削減することは可能か ・目的や形態が類似、関連する事業との統合・連携によりコストの削減は可能か	● 現行どおりでよい	自主文化事業の民間委託は、収益確保の観点から難しいと考えられる。 三館で同様の事業を実施し、現在でも企画や計画の調整、実施の相互協力を行っている。また、県内外の施設での公演と同時期に招聘することによるコストの削減

コスト削減は可能か ・現状の成果を下げずに非常勤職員等による対応その他の方法により、人件費を削減することは可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担を見直す必要があるか(引上げ・引下げ・新たな負担・廃止)	見直しが必要	減に努めている。よって、これ以上のコスト削減は不可能である。 非常勤職員等となる者が、本事業に必要な専門性・特殊性を持つ場合など、条件によっては有効と考えられる
---	---------------	---

4 (Action) 事務事業の方向性と改革改善					
今後の方向性 (該当欄を選択)	1 不要(廃止) 4 市による実施(要改善)	2 民間実施 ● 5 市による実施(現行どおり)	3 市による実施(民間委託の拡大・市民等との協働等) 6 市による実施(規模拡充)		
今後の方向性の理由、改革改善の取組等	(今後の方向性の理由、改革改善の取組ともたらそうとする効果など) 各事業の継続を図りつつ、公演内容の精査や付加価値の追加など、観客や参加者の減少に対する改善に努める。また、市民の意見がより反映されるような仕組み作りを検討していく。 ①「劇場、音楽堂等の事業の活性化に関する法律」及び「劇場、音楽堂等の事業の活性化のための取組に関する指針」に基づく「八代市文化ホール運営方針」を平成28年3月に策定し、自主文化事業は市の直営による実施を謳っている、②他と連携(共催事業)した事業の展開、③広報宣伝の強化を行うことで、本事業の企画や運営を向上し、入場者の増加により、地域文化の振興・発展を図る。				
外部評価の実施		有：外部評価	<table border="1"> <tr> <td>実施年度</td> <td>平成22年度</td> </tr> </table>	実施年度	平成22年度
実施年度	平成22年度				
改善進捗状況等	H28進捗状況	1. 対応済(廃止含む)			
	H28取組内容	財政状況の厳しい中、文化庁劇場・音楽堂等活性化事業や宝くじ助成事業、県劇ネットワーク事業等の補助事業を活用したり、共催事業を積極的に実施したりして、一般財源の負担を軽減した。 また、市民の意見がより反映されるように事業毎にアンケートを実施し、翌年度以降の事業候補として検討を行っている。			
決算審査に伴う常任委員会における意見等	(委員からの意見等) 入場者増のため、もっと魅力ある催物を実施して欲しい。				

事業の活動量・実績の数値化 活動指標	指標名		単位		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	①	年間ホール利用可能日数	日	計画	-	335	335	335	335	335
				実績	330	324	314	276	270	-
	②			計画	-					
				実績						-
	③			計画	-					
				実績						-
〈記述欄〉※数値化できない場合										
もたらそうとする効果・成果の数値化 成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	① 厚生会館来場者数	施設の管理運営は、利用していただくための事業であり、利用者数の推移は直接的な評価となる。	人	計画	-	92000	92000	92000	92000	92000
				実績	91784	94087	71201	71369	66471	-
	② ホール利用件数	施設の管理運営は、利用していただくための事業であり、利用件数の推移は直接的な評価となる。	件	計画	-	160	160	160	160	160
				実績	158	145	122	118	113	-
	③			計画	-					
				実績						-
〈記述欄〉※数値化できない場合										

3 (Check) 事務事業の自己評価		
着眼点	チェック	判断理由
◆事業実施の妥当性を備えているか ・事業の目的が上位政策・施策に結びつくか ・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か(国・県・民間と競合していないか)	● 妥当である 概ね妥当である 妥当でない	本事業は、「八代市総合計画」及び「八代市文化振興計画」において、実施していくことが明記されている。 平成28年度は熊本地震で利用件数及び来場者数は減少気味ではあるものの、施設の管理の目的である市民の利用はまだ多く、そのニーズは高い。 市が主体となって管理運営を行う。
◆活動内容は有効なものとなっているか ・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか(成果をこれ以上伸ばすことはできないか)	● 有効である ● 概ね有効である 有効でない	開館以来、55年が経過し、修繕が十分対応できていない部分がある。しかし、限られた予算の範囲内で管理運営全般は順調に事業を推進している。 光熱費や設備機器の保守点検など、義務的経費が主体であり、見直しの余地はない。
◆実施方法は現行どおりでよい ・民間委託、指定管理者制度の導入などにより、成果を下げずにコストを削減することは可能か ・目的や形態が類似、関連する事業との統合・連携によりコストの削減は可能か ・現状の成果を下げずに非常勤職員等による対応その他の方法により、人件費を削減することは可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担を見直す必要があるか(引上げ・引下げ・新たな負担・廃止)	● 現行どおりでよい 見直しが必要	「劇場、音楽堂等の事業の活性化に関する法律」及び「劇場、音楽堂等の事業の活性化のための取組に関する指針」に基づく「八代市文化ホール運営方針」を平成28年3月に策定し、直営で運営することを謳っている。その中で様々な方策を検討し、コスト削減に努めていく。 管轄する文化センター管理運営事業の保守点検等の見直しなど、連携等に検討の余地がある。 非常勤職員については、夜間や休日業務をすでに対応しているため、これ以上の見直しはできない。 近隣施設との比較でも適正なものと考えられる。

4 (Action) 事務事業の方向性と改革改善			
今後の方向性 (該当欄を選択)		1 不要(廃止) 2 民間実施 3 市による実施(民間委託の拡大・市民等との協働等) 4 市による実施(要改善) ● 5 市による実施(現行どおり) 6 市による実施(規模拡充)	
今後の方向性の理由、改革改善の取組等		(今後の方向性の理由、改革改善の取組ともたらそうとする効果など) 現状の施設の維持管理及び保守点検が本事業の概要であり、現状を継続していくことが必要。 施設の運営や維持管理、施設設備の保守点検などについて、必要に応じてこれまで同様に取り組んでいくとともに、応接待遇の改善や利用にあたってのアドバイスなどを行うことで、利用者の満足度やリピーター率の向上につなげ、来場者数及び利用件数の増加を図る。	
外部評価の実施		無	実施年度
改善進捗状況等	H28進捗状況		
	H28取組内容		
決算審査に伴う常任委員会における意見等		(委員からの意見等) 予算流用が多い。	

事業の活動量・実績の数値化 活動指標	指標名		単位		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	①	年間ホール利用可能日数	日	計画	-	335	335	335	335	335
				実績	285	323	325	333	282	-
	②			計画	-					
				実績						-
	③			計画	-					
				実績						-
〈記述欄〉※数値化できない場合										
もたらそうとする効果・成果の数値化 成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	①	文化センター来場者数 施設の管理運営は、利用していただくための事業であり、利用者数の推移は直接的な評価となる	人	計画	-	25500	25500	25700	25700	25700
				実績	25260	22680	29264	59846	29279	-
	②	ホール利用件数 施設の管理運営は、利用していただくための事業であり、利用件数の推移は直接的な評価となる。	件	計画	-	80	80	80	80	80
				実績	78	91	99	139	109	-
	③			計画	-					
				実績						-
〈記述欄〉※数値化できない場合										

3 (Check) 事務事業の自己評価		
着眼点	チェック	判断理由
◆事業実施の妥当性を備えているか ・事業の目的が上位政策・施策に結びつくか ・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か(国・県・民間と競合していないか)	● 妥当である 概ね妥当である 妥当でない	本事業は、「八代市総合計画」及び「八代市文化振興計画」において、実施していくことが明記されている。 前年度と比較して利用件数が約78%及び来場者数が約49%と著しく減少しているが、これは、熊本地震による休館や会議室等の執務室化に伴うもので、施設の管理の目的である市民の利用はまだまだ多く、そのニーズは高い。 市が主体となって管理運営を行う。
◆活動内容は有効なものとなっているか ・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか(成果をこれ以上伸ばすことはできないか)	有効である ● 概ね有効である 有効でない	開館以来20年近く経過し、修繕が十分対応できていない部分があるものの管理運営全般は順調に事業を推進している。 光熱費や保守点検など、義務的経費が主体であり、見直しの余地はない。
◆実施方法は現行どおりでよい ・民間委託、指定管理者制度の導入などにより、成果を下げずにコストを削減することは可能か ・目的や形態が類似、関連する事業との統合・連携によりコストの削減は可能か ・現状の成果を下げずに非常勤職員等による対応その他の方法により、人件費を削減することは可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担を見直す必要があるか(引上げ・引下げ・新たな負担・廃止)	● 現行どおりでよい 見直しが必要	「劇場、音楽堂等の事業の活性化に関する法律」及び「劇場、音楽堂等の事業の活性化のための取組に関する指針」に基づく「八代市文化ホール運営方針」を平成28年3月に策定し、直営で運営することを謳っている。その中で様々な方策を検討し、コスト削減に努めていく。 他事業との統合連携では、担当課や主管が同じ厚生会館及び千丁文化センター管理運営事業の連携等に検討の余地がある。非常勤職員については、夜間や休日業務をすずに対応しているため、これ以上の見直しはできない。 近隣施設との比較でも適正なものと考えられる。

4 (Action) 事務事業の方向性と改革改善			
今後の方向性 (該当欄を選択)		1 不要(廃止) 2 民間実施 3 市による実施(民間委託の拡大・市民等との協働等) 4 市による実施(要改善) ● 5 市による実施(現行どおり) 6 市による実施(規模拡充)	
今後の方向性の理由、改革改善の取組等		(今後の方向性の理由、改革改善の取組ともたらそうとする効果など) 現状の施設の維持管理及び保守点検が本事業の概要であり、現状を継続していくことが必要。 施設の運営や維持管理、施設設備の保守点検などについて、必要に応じてこれまで同様に取り組んでいくとともに、応接接遇の改善や利用にあたってのアドバイスなどを行うことで、27年度以上に利用者の満足度やリピーター率の向上につなげ、来場者数及び利用件数の増加を図る。	
外部評価の実施		無	実施年度
改善進捗状況等	H28進捗状況		
	H28取組内容		
決算審査に伴う常任委員会における意見等		特になし (委員からの意見等)	

No4280689

事務事業票

所管部長等名経済文化交流部長 辻本 士誠
所管課・係名文化振興課 厚生会館
課長名一村 勲

評価対象年度平成28年度

1 (Plan) 事務事業の計画

事務事業名	千丁文化センター管理運営事業			会計区分	01 一般会計				
				款項目コード(款-項-目)	9	—	7	—	3
施策の体系 (八代市総合計画に おける位置づけ)	基本目標(章)	2	郷土を拓く人を育むまち	事業コード(大-中-小)	2	—	41	—	26
	施策の大綱(節)【政策】	4	文化のかおり高いまちづくり	総合戦略での 位置づけ	基本目標				
	施策の展開(項)【施策】	1	伝統の継承・活用と八代の文化の創造		施策大項目				
	具体的な施策と内容	3	文化施設の整備・充実		施策小項目				
事務事業の概要 (全体事業の内容)	施設の維持管理に必要な光熱水費の支払いや簡易な修繕、舞台機構や照明音響などの設備の保守点検、舞台技術や夜間管理の委託を行う。(ただし、自家用電気工作物保守点検、消防設備保守点検については健康福祉政策課の予算)								
実施手法 (該当欄を選択)	☐ 全部直営 ☒ 一部委託 ☐ 全部委託 ☐ その他()								
補助金事業該当	☐ 補助金(主な補助先:)※予算の全てが補助金支出である場合に記入。								
根拠法令、要綱等	「八代市文化センター条例」第5条、第9条 ・ 同施行規則第9条								
事業期間	開始年度		終了年度		法令による実施義務 (該当欄を選択)	☒ 1 義務である ☐ 2 義務ではない			
	合併前		平成28年度						

2 (Do) 事務事業の実施

評価対象年度の事業内容等

対 象 (誰・何を)	千丁文化センターの施設及び設備の維持管理								
事業内容(手段、方法等)			成果目標(どのような効果をもたらしたいのか)						
千丁文化センターの施設及び設備の維持管理 【主な事業内容】 ・施設運営管理にかかる光熱水費 5,131,047円 ・設備の保守点検費 2,791,800円 ・舞台技術、夜間管理業務にかかる委託費 4,110,108円			千丁文化センターの施設設備を維持管理することにより、利用者の安全性を確保するとともに快適性を向上し、利用率及び利用件数・利用者数を増加させる。						
コスト推移			26年度決算	27年度決算	28年度決算	29年度予算	30年度見込	31年度見込	32年度見込
事業費(直接経費) (単位:千円)			10,347	11,776	13,113				
財 源 内 訳	国県支出金								
	地方債								
	その他特定財源(特別会計→繰入金)		2,575	2,755	3,085				
	一般財源(特別会計→事業収入)		7,772	9,021	10,028				

事業の活動量・実績の数値化 活動指標	指標名		単位		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	①	ホール利用可能日数	日	計画	-	340	340	340	340	
				実績	340	341	359	351	286	-
	②			計画	-					
				実績						-
	③			計画	-					
				実績						-
〈記述欄〉※数値化できない場合										
もたらそうとする効果・成果の数値化 成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	①	文化センター来場者数 施設の管理運営は、利用していただくための事業であり、利用者数の推移は直接的な評価となる。	人	計画	-	17300	17300	17500	17500	-
				実績	17174	17317	17525	15407	21458	-
	②	ホール利用件数 施設の管理運営は、利用していただくための事業であり、利用件数の推移は直接的な評価となる。	件	計画	-	110	110	110	110	-
				実績	116	99	99	106	107	-
	③			計画	-					
				実績						-
〈記述欄〉※数値化できない場合										

3 (Check) 事務事業の自己評価		
着眼点	チェック	判断理由
◆事業実施の妥当性を備えているか ・事業の目的が上位政策・施策に結びつくか ・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か(国・県・民間と競合していないか)	● 妥当である 概ね妥当である 妥当でない	本事業は、「八代市総合計画」及び「八代市文化振興計画」において、実施していくことが明記されている。 熊本地震により、熊本北部からの主催者による使用が増えたため、利用件数は横ばいであるものの、来場者数は増加している。よって、施設の管理の目的である市民の利用はまだ多く、そのニーズは高い。 市が主体となって管理運営を行う。
◆活動内容は有効なものとなっているか ・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか(成果をこれ以上伸ばすことはできないか)	有効である ● 概ね有効である 有効でない	開館から20年が経過し、修繕が十分対応できていない部分があるものの管理運営全般は順調に事業を推進している。 事業内容については、義務的経費が主体であり、見直しの余地はない。
◆実施方法は現行どおりでよい ・民間委託、指定管理者制度の導入などにより、成果を下げずにコストを削減することは可能か ・目的や形態が類似、関連する事業との統合・連携によりコストの削減は可能か ・現状の成果を下げずに非常勤職員等による対応その他の方法により、人件費を削減することは可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担を見直す必要があるか(引上げ・引下げ・新たな負担・廃止)	● 現行どおりでよい 見直しが必要	「劇場、音楽堂等の事業の活性化に関する法律」及び「劇場、音楽堂等の事業の活性化のための取組に関する指針」に基づく「八代市文化ホール運営方針」を平成28年3月に策定し、直営で運営することを謳っている。その中で様々な方策を検討し、コスト削減に努めていく。 他事業との統合連携では、平成29年度より、八代市市民館と称して生涯学習課の所管になるため、検討の余地がある。非常勤職員については、夜間や休日の業務をすでに対応しているため、これ以上の見直しはできない。 近隣施設との比較でも適正なものと考えられる。

4 (Action) 事務事業の方向性と改革改善			
今後の方向性 (該当欄を選択)		1 不要(廃止) 2 民間実施 3 市による実施(民間委託の拡大・市民等との協働等) 4 市による実施(要改善) ● 5 市による実施(現行どおり) 6 市による実施(規模拡充)	
今後の方向性の理由、改革改善の取組等		(今後の方向性の理由、改革改善の取組ともたらそうとする効果など) 現状の施設の維持管理及び保守点検が本事業の概要であり、現状を継続していくことが必要である。 施設の運営や維持管理、施設設備の保守点検などについて、必要に応じてこれまで同様に取り組んでいくとともに、応接接遇の改善や利用にあたってのアドバイスなどを行うことで、利用者の満足度やリピーター率の向上につなげ、来場者数及び利用件数の増加を図る。 尚、平成29年度から八代市公民館と名称を変え、生涯学習課の所管となる。	
外部評価の実施		無	実施年度
改善進捗状況等	H28進捗状況		
	H28取組内容		
決算審査に伴う常任委員会における意見等		特になし (委員からの意見等)	

事業の活動量・実績の数値化		指標名	単位		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
①				計画	-					
				実績						-
②				計画	-					
				実績						-
③				計画	-					
				実績						-
〈記述欄〉※数値化できない場合 本事業は厚生会館及び文化センターの施設設備の整備に必要な修繕や更新が主たる内容であり、毎年度その対象や金額等も大きく異なるため、事業の量や実績を指標として数値化することはできない。										

成果指標・成果の数値化		指標名	指標設定の考え方	単位		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
①	利用者の満足度	施設利用の主催者へのアンケートにより、施設設備の充実度等を計る。	%	計画	-		70	75	95	95	95
				実績	-		95	95	95	-	
②				計画	-						
				実績							-
③				計画	-						
				実績							-
〈記述欄〉※数値化できない場合											

3 (Check) 事務事業の自己評価		
着眼点	チェック	判断理由
◆事業実施の妥当性を備えているか ・事業の目的が上位政策・施策に結びつくか ・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か(国・県・民間と競合していないか)	● 妥当である 概ね妥当である 妥当でない	「八代市総合計画」でも文化施設の充実が具体的な施設に位置づけられている。 それぞれ年間3万～7万人以上の利用がある施設の安全性・快適性を保持していく本事業の役割は重要である。 施設の管理運営を市が行っている以上、その整備に責任があり、主体となっていくことは当然である。
◆活動内容は有効なものとなっているか ・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか(成果をこれ以上伸ばすことはできないか)	● 有効である 概ね有効である 有効でない	施設利用者へのアンケートでも、施設設備の充実度に関して満足している方が95%ということで順調である。
◆実施方法は現行どおりでよい ・民間委託、指定管理者制度の導入などにより、成果を下げずにコストを削減することは可能か ・目的や形態が類似、関連する事業との統合・連携によりコストの削減は可能か ・現状の成果を下げずに非常勤職員等による対応その他の方法により、人件費を削減することは可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担を見直す必要があるか(引上げ・引下げ・新たな負担・廃止)	● 現行どおりでよい 見直しが必要	市が直接管理運営している施設であり、整備改修については民間委託等はできない。 他事業との統合・連携も考えられない。 非常勤職員等による事業の対応はできない。 本事業や他の施設の同様の事業についても、これまで受益者負担が想定されておらず、現状では見直しの余地はない。

4 (Action) 事務事業の方向性と改革改善			
今後の方向性 (該当欄を選択)	1 不要(廃止) 4 市による実施(要改善)	2 民間実施 ● 5 市による実施(現行どおり)	3 市による実施(民間委託の拡大・市民等との協働等) 6 市による実施(規模拡充)
今後の方向性の理由、改革改善の取組等	(今後の方向性の理由、改革改善の取組ともたらそうとする効果など) 広く市民に利用され、また一度に多数の利用者が集中する施設である厚生会館、文化センターの安全性・快適性を確保維持していくことは、施設の管理運営の責任を負う市が行う事業である。 今後、整備や改修が必要となっていくことは明白であり、整備計画の見直しなどの改善が欠かせない。 施設設備の整備充実を図っているが、開館以来54年が経過し、また国の基準見直しにより新たに改修等を要する部分(吊天井等)も出てきている。 ①吊天井の改修を含めた中長期的な整備計画の策定、②老朽化の進行や保安基準等の変更に伴う整備計画の修正を随時行うことで、利用者の安全性・快適性の確保と満足度の向上を図る。		
外部評価の実施	無		実施年度
改善進捗状況等	H28進捗状況		
	H28取組内容		
決算審査に伴う常任委員会における意見等	特になし (委員からの意見等)		